

令和6年度 専門学校山梨県立農林大学校 評価シート（学校評価の結果）

外部 資料-1

重点目標	○農業及び林業への就業に向けた幅広い人材の確保と育成 ○農林業に興味のある者に対する円滑な就業・定着の推進
------	--

評価基準(達成度)		
4	適切	評価指標の8割以上達成
3	ほぼ適切	評価指標の6割以上達成
2	やや不適切	評価指標の5割以上達成
1	不適切	評価指標の達成5割未満

課題番号	課題	目標	評価項目	具体的な方策・評価指標	内部評価			外部評価委員会の意見・提言		
					経過・達成実績	達成度	次年度の課題と改善策			
1	専門学校農林大学校として幅広い人材の確保	将来の本県の農林業の担い手育成に向け、農林業を志す高校生等に対して農林大学校のPRを行い、幅広く多くの人材を確保する。	・入試の志願者数 ・入学案内等の配布箇所数 ・高校等への訪問箇所数 ・SNS(インスタグラム)の更新回数とフォロワー数、情報発信した回数、メディア数等 ・情報発信したメディア数 ・森林学科紹介動画のHP掲載動画再生回数 ・学校説明会等の参加人数と開催回数、対応した学生数 ・高校の進路相談会への参加回数	①入学者数の確保（推薦入試、一般前期入試、一般後期入試） ・志願者 養成科 果樹学科・園芸学科 33人以上 森林学科 11人以上 専攻科 落葉果樹学科 3人以上 計47人 ②農林大学校入学案内・ポスターの作成、配布 ・県内・県外高校、関係団体への配布 70箇所以上 ③高等学校等訪問の実施 ・県内高校、農業関係機関などへの訪問箇所数 延べ100箇所以上 ・県外高校、林業関係機関・団体への訪問箇所数 延べ 30箇所以上 ④ホームページ等での情報発信 HP、新聞、ラジオ、テレビなどメディア（民間の進学情報、SNS、YouTube等）での広報 ・SNS(インスタグラム)の更新回数 ・SNS(インスタグラム)のフォロワー数 ・Web広告の掲載 50回以上 150以上 3回以上 ⑤学校説明会等の開催 学校説明会、高校1、2年生あぐり体験 ・学校説明会開催回数 ・高校1、2年生あぐり体験開催回数 ・延べ参加者数 ・在校学生対応者数 森林体験ツアー ・林業体験ツアー参加者数 5回 1回 120人 延べ25人以上 10人以上 ⑥高校や民間が主催する進路相談会での学校紹介 ・進路相談会への参加 (WEB含む) 6回以上 指標：上記15項目の達成	①入学者数の確保（推薦入試、一般前期入試、一般後期入試） ・志願者 養成科 果樹学科・園芸学科 34人 森林学科 5人 専攻科 落葉果樹学科 9人 計48人 ②農林大学校入学案内・ポスターの作成、配布 ・県内・県外高校、関係団体への配布 105箇所 ③高等学校等訪問の実施 ・県内高校、農業関係機関などへの訪問箇所数 延べ56箇所 ・県外高校、林業関係機関・団体への訪問箇所数 延べ31箇所 ※県外高校：19箇所 ④ホームページ等での情報発信 HP、新聞、ラジオ、テレビなどメディア（民間の進学情報、SNS、YouTube等）での広報 ・SNS(インスタグラム)の更新回数(3/31現在) 74回 ・SNS(インスタグラム)のフォロワー数(R7年5/19現在) 300 ・Web広告の掲載 スタディサプリ、農業をはじめる.jp、マイナビ農業 インスタグラム学生募集(4回) ・情報発信したメディア数 6 ホームページ、山梨日日新聞、YBSラジオ農事メモ、 全国農業新聞、ふれあい(山梨県)、山梨新報 ・森林学科紹介動画のHP掲載動画再生回数(3/31現在) 824回 ⑤学校説明会等の開催 学校説明会、高校1、2年生あぐり体験 ・学校説明会開催回数(内あぐり体験数) 5回(3回) ・高校1、2年生あぐり体験開催回数 1回 ・延べ参加者数(生徒95人、支援者61人) 156人 ・在校学生対応者数 延べ50人 森林体験ツアー ・林業体験ツアー参加者数 29人 ⑥高校や民間が主催する進路相談会での学校紹介 ・進路相談会への参加(全て対面) 15回 15項目中13項目の達成：達成度4 ○外部評価委員の意見を踏まえ、③高等学校等訪問の実施のうち、「県内高校、農業関係機関などへの訪問箇所数」については、説明時間を十分確保し、進路担当教諭に直接丁寧に説明することで例年2回の訪問が1回で済んだことから達成できたものとして整理。 これにより、15項目中14項目達成となり達成度は4	4	①少子化に伴い学生の確保が難しくなっている。学生を確保するため、県内外高校への訪問・丁寧な説明を行うなど、高校生ばかりではなく高校教職員の理解も深める取組を行っていく必要がある。 ②学生確保のため、SNSなどを通じた定期的な情報発信とともに、本校学生との交流・本校ほ場でのあぐり体験などを実施し、本校の魅力を伝える取組を行っていく必要がある。	○入学者数の確保（志願者数）については、学科ごとに記載しているが、計も示しておくと分かりやすい。 ○訪問回数や開催回数など回数だけで評価をしている。数字だけ見れば達成できなかったが、説明を聞く中では内容的には十分評価すべきだと思う。	○評価指標で評価しているので、達成できない項目もあるが、農林大学校の良い取り組みはしっかりと評価に反映していくことも必要なので、評価方法の検討をお願いしたい。	○ある程度具体的な数値化がないと評価しがたい部分もあり、どうしても項目立てをした上での数値化が必要となってしまうが、最終的には農林大学校の入学定員の確保や就職の達成度合、卒業論文の熟度などが、評価目標だと思う。各委員からの指摘を踏まえ、農林大学校としての役割を発揮できているのかという点が十分わかるような評価項目を改めて検討していただきたい。

課題番号	課題	目標	評価項目	具体的方策・評価指標	内部評価			外部評価委員会の意見・提言
					経過・達成実績		達成度	
2	農林業系高校との教育交流の推進	農林業系高校と農林大学校との連携による専門教育を推進するとともに、教職員や学生の交流を図る。	・本校へ興味を持った生徒の割合	①連携推進会議、連絡会議による連携強化 ・教育交流により本校に興味を持った生徒割合 75%以上	①連携推進会議、連絡会議の開催による連携強化 ・教育交流により本校に興味を持った生徒割合 67%		①本校に興味を持つ高校生の割合を高めるためには地道な取組が必要であることから、引き続き農業系高校と連携した教育交流を実施していく。令和7年度は学生も一緒に高校へ伺い、学生の生の声を聞いてもらうことで、より興味を持てる内容となるよう努めいく。	○教育交流により興味を持った生徒の割合及びプロジェクト発表会への参加者が達成できなかった原因は分かれているのか。興味を持った生徒の割合の低さがその後のプロジェクトの発表会へ参加者が少ないと繋がっているのか。時代とともに生徒の興味なども変わってくると思うので、教育交流の内容がこの内容で良かったのか分析していくが、今後の入学者数にも反映されてくると思う。
			・PR資料の作成と配布	・PRパンフレットの作成 改定	・PRパンフレットの作成 農林業に興味を持ってもらえるよう高校3年間と農林大学校2年間の継続性ある専門性の高い学習ができるなどをPR 改定			
			・森林学科と農林高の交流	・小中学生へのPRパンフ配布 5,000部	・小中学生へのPRパンフ配布 5,300部			
			・高校生への授業回数等	②本校職員による高校生に対する授業の実施 ・出前での講義、ゼミ、実習の実施回数 15回	②本校職員による高校生に対する授業の実施 ・出前での講義、ゼミ、実習の実施回数 北杜高校(7/9、3/17(森)、3/17(森)) 農林高校(6/24、7/8、7/9、7/9(森)、7/9(森)、9/10、9/19(森)、10/8(森)、10/24(森)、11/13(森)、12/12(森)、1/16、1/21) 笛吹高校(9/2、9/13、10/7、2/7)	20回		
			・農林業系高校の本校での実習	2校	・農林業系高校の本校での実習 北杜高校、農林高校	2校		
			・現地視察研修	果樹・野菜・花きで1ヶ所	・現地視察研修 雨宮園芸(花き)、(株)GRAP BASE(果樹)、菊島農場(野菜)、道の駅とよみ(9/13)	4ヶ所	4	
			・プロジェクト発表会への相互交流参加人数	③プロジェクト発表での相互交流(WEB参加含む) ・プロジェクト発表会への高校職員・生徒の参加 20人	③プロジェクト発表での相互交流(WEB参加含む) ・プロジェクト発表会への高校職員・生徒の参加 15人			
			・教職員・学生の交流回数	④教職員・学生の交流(WEB参加含む) ・教職員の合同研修 1回	④教職員・学生の交流(WEB参加含む) ・教職員の合同研修 ラジコン草刈機実演(9/12、9/27) 2回			
			・学生交流の実施	7回	・学生交流の実施 会議での交流(4/18、9/19、1/15)、北杜高校(10/5)、農林大(10/26)、農林高校(11/3)、笛吹高校(11/9) 7回			
				指標：上記10項目の達成	10項目中8項目の達成：達成度 4			

課題番号	課題	目標	評価項目	具体的方策・評価指標	内部評価			外部評価委員会の意見・提言
					経過・達成実績		達成度	
3	実践教育の充実と学生の技能・知識の向上	実践的な教育を進め、専門学校として特色ある学校づくりを推進する。また、学生の技能・知識の向上を図り、進路決定に向け支援を充実する。	・農林業への就職率	①学生の農林業への就業・農林業関連企業等への就職支援 ・学生の農林業への就業(自営+雇用就業)+関係団体等への就職率 50%以上	①学生の農林業への就業・農林業関連企業等への就職支援 ・学生の農林業への就業(自営+雇用就業)+関係団体等への就職率 29/39人(養37人+専2人)	74%	①今後の就農、就業に向けて学生の課題解決能力を向上するため、卒業論文の課題設定や解決手法、結果に基づく考察などの指導を重点的に行うことで、上位の評価割合を向上させていく。	○研修受け入れ先への巡回について、評価指標は「1回以上」となっているが、内部評価だと「1箇所あたり1回」と評価になっている。分かりやすい記載を検討してもらいたい。
			・研修受け入れ先に対する説明の回数	②実習や先進農業派遣研修、林業事業体でのインターンシップの実施 ・1受入れ先に対する説明等の実施 1回以上	②実習や先進農業派遣研修、林業事業体でのインターンシップの実施 ・1受入れ先に対する説明等の実施 長坂C 各受入れ先1回説明(4/16~4/30) 富士川C 合同説明会1回開催(5/23)	1回	②大型特殊、バックホールなどの免許・資格に加え、農業法人等への就職や就農後も活用できる資格の紹介等により取得を促していく。	○卒業論文の評価が低いが、学生の学習意欲はどうなのかなと疑問を感じた。卒業論文の評価が目標に達しなかったことは、近年なかったと思う。学生の卒業論文のテーマや指導について、内部で検討する必要があると思う。
			・研修受入れ先の評価	・受入れ先の学生に対する「よい・ふつう」の評価割合 90%以上	・受入れ先の学生に対する「よい・ふつう」の評価割合 97%	97%	③森林学科発足後3年が経過し、100%カリキュラムの計画的な実施が可能となったことから、令和7年度の評価指標から除くこととする。	○資格取得について、目標として必要最低限の資格とプラスαの部分を分けてもいいのかなと思う。
			・発表会の評価割合	③卒業論文への取組 ・発表会におけるA評価の割合 80%以上	③卒業論文への取組 ・発表会におけるA評価の割合	68%		
			・学生の進路決定率	④企業ガイダンスの実施、就職セミナー等への参加指導 ・学生の進路決定率 90%以上	④企業ガイダンスの実施、就職セミナー等への参加指導 ・学生の進路決定率 3/31現在39/39人(養37人+専2人)	100%		
			・学生の理解	⑤有機農業・先端技術特別講座の実施 ・有機農業、スマート農業・スマート林業への関心と理解が高まった学生の割合 90%以上	⑤有機農業・先端技術特別講座の実施 ・有機農業、スマート農業・スマート林業への関心と理解が高まった学生の割合(一部今後実施予定)	96%		
			・農業の先端技術特別講座の開催	4回	・農業の先端技術特別講座の開催 スマート農業(7/23)、スマートガラス研修(7/2)、ICT活用(1/22)、ドローン研修(2/17)	4回	4	
			・有機農業等の現地研修の実施	2箇所	・有機農業等の現地研修の実施 有機JAS研修(12/11)、GAP-ICT研修(12/11)	2箇所		
			・免許・資格の取得数	⑥資格取得に向けた講義の実施 ・農業系学生の免許・資格の平均取得数 4種以上	⑥資格取得に向けた講義の実施 ・農業系学生の免許・資格の平均取得数 (大型特殊・刈払教育・小型車両3種取得80%、その他1種以上40%)	3.8種		
			・連携した大学数	・林業系学生の免許・資格の平均取得数 13種以上	・林業系学生の免許・資格の平均取得数 14.3種			
			・計画的実施率と課題解決率	⑦県内大学との連携による特別講義・実習の実施 ・実施校数 2校以上	⑦県内大学との連携による特別講義・実習の実施 ・実施校数(山梨大学、山梨学院大学)	2校		
				⑧森林学科教育カリキュラムの充実 ・カリキュラムの計画的実施 ・カリキュラム編成の課題解決率 100%	⑧森林学科教育カリキュラムの充実 ・カリキュラムの計画的実施 ・カリキュラム編成の課題解決率 100%	100%		
				・オンラインを活用した授業の実施 15回以上	・オンラインを活用した授業の実施 30回			
指標：上記15項目の達成					15項目中の13項目達成：達成度4			

課題番号	課題	目標	評価項目	具体的方策・評価指標	内部評価			外部評価委員会の意見・提言
					経過・達成実績		達成度	
農業や林業に興味のある者に対する理解促進と円滑な就業・定着の推進	実践的な農林業体験の場の提供と、関係機関との連携による即戦力となる人材の育成により、就業定着を進めます。	・就農相談会等への職員の参加 ・県内外の就農相談会への参加 ・県内外の林業への就業相談会への参加 ・就農トレーニング塾の実施、職業訓練農業科（果樹、野菜・有機農業コース）の開設 ・就農トレーニング塾の補強講師数と受講者数、アンケートでの満足度割合 ・就農トレーニング塾の受講者数 ・就農トレーニング塾の受講者へのアンケートで「おおむね満足」以上の割合 ・職業訓練者数 ・農業分野への職業希望率と研修継続率、アンケートでの満足度割合	①就農フェアや就業相談会等への職員の参加 ・県内外の就農相談会への参加 甲府市(8/25)、甲府市(12/15) ②就農トレーニング塾の実施、職業訓練農業科（果樹、野菜・有機農業コース）の開設 ・就農トレーニング塾の補強講師数 果樹コース 2人増 ・就農トレーニング塾受講者数 106人 週末（年間10日）コース 84人(土豆 34人、モモ 16人、野菜 18人、有機農業 15人) 平日（1日）コース 22人(果樹 15人、野菜 7人) ・就農トレーニング塾受講者アンケートで「おおむね満足」以上の割合 97% 週末（年間10日）コース 97% 平日（1日）コース 95% ・職業訓練農業科（果樹、野菜・有機農業コース）の開設 46人 果樹コース29人、野菜・有機農業コース17人 ③職業訓練農業科訓練生の円滑な就業に向けた農業振興公社、農務事務所担当者との情報交換の実施 ・職業訓練農業科訓練生の農業分野への就業希望率と研修継続率の合計 80%以上 ・訓練に対する訓練生のニーズ把握及び派遣先への巡回 1回以上 ・訓練受講者へのアンケートで「おおむね満足」以上の割合 80%以上	①就農フェアや就業相談会等への職員の参加 ・県内外の就農相談会への参加 甲府市(6/29)、東京都(9/21)、甲府市(10/5) 甲州市(11/17) ②就農トレーニング塾の実施、職業訓練農業科（果樹、野菜・有機農業コース）の開設 ・就農トレーニング塾の補強講師数 2人 果樹コース 2人増 ・就農トレーニング塾受講者数 106人 週末（年間10日）コース 84人(土豆 34人、モモ 16人、野菜 18人、有機農業 15人) 平日（1日）コース 22人(果樹 15人、野菜 7人) ・就農トレーニング塾受講者アンケートで「おおむね満足」以上の割合 97% 週末（年間10日）コース 97% 平日（1日）コース 95% ・職業訓練農業科（果樹、野菜・有機農業コース）の開設 46人 果樹コース29人、野菜・有機農業コース17人 ③職業訓練農業科訓練生の円滑な就業に向けた農業振興公社、農務事務所担当者との情報交換の実施 ・職業訓練農業科訓練生の農業分野への就業希望率と研修継続率の合計 93% 果樹25/27人、野菜・有機農業18/19人 ・訓練に対する訓練生のニーズ把握及び派遣先への巡回 派遣先1カ所あたり1回 ・訓練受講者へのアンケートで「おおむね満足」以上の割合 果樹27/27人、野菜・有機農業18/18人 100%	①職業訓練農業科の訓練生数について、関係機関と連携し様々な機会を通じて訓練生の獲得を目指していく。 ②就農トレーニング塾の補強講師は十分な数が確保できたため、令和7年度の評価指標から除くこととする。	4	指標：上記9項目の達成 9項目中8項目の達成：達成度4	
4								

課題番号	課題	目標	評価項目	具体的方策・評価指標	内部評価			外部評価委員会の意見・提言
					経過・達成実績		達成度	
5	農林業の発展に向けた研修等の充実	農林業の経営力を強化する一つの方法として、6次産業化のプロセスを座学と演習により実践力を習得するほか、経営分析や事業プランの作成を行う。 農林業者の農林業機械の基本操作の習得、安全利用に関する知識を習得する。	・研修の開催回数、受講者数	①農業者、農業指導者を対象とした農業機械研修の実施 ・農作業安全を含めた農業機械研修の開催	9回	①農業者、農業指導者を対象とした農業機械研修の実施 ・農作業安全を含めた農業機械研修の開催 トランク-単体3回、トランク-けん引1回、小型バッテリー3回、トランク-作業機1回、農機安全利用整備1回	9回	①林業研修については、開催初年度であり、事業者に研修の内容や有益性が理解されていなかったと考えられることから、早期に研修内容の周知や参加者の声などについて情報提供していく。評価指標は実態に合わせて修正するが、有益な研修になるよう参加者に寄り添った指導を実施することで、受講者の増加に向けて取り組んでいく。
				・農作業安全教育の実施に関する情報提供	10回	・農作業安全教育の実施に関する情報提供 戦略会議10回、農業振興公社会議2回	12回	
				・農業機械の運転操作技術向上に関する研修受講者	120人以上	・農業機械の運転操作技術向上に関する研修受講者 トランク-単体37人、トランク-けん引18人、小型バッテリー64人、トランク-作業機10人、農機安全利用整備13人	132人	
				・農作業安全研修会(農業技術課主催)への講師対応	1回	・農作業安全研修会(農業技術課主催)への講師対応 5/8専任講師他2人対応	1回	
			・加工試作品の開発数と試験販売数	②専攻科のアグリビジネス論による6次産業化の実際を演習 ・加工試作品の開発	2品以上	②専攻科のアグリビジネス論による6次産業化の実際を演習 ・加工試作品の開発 ジャム(巨峰、キウイフルーツ、モモ)、コンポート(巨峰、キウイフルーツ、モモ)、サルサソース、ニンニク醤油、甘味噌、辛味噌、ドレッシング(イタリアンマリスラン、和風ニンニク醤油、甲州フレッシュ)	7品	
				・加工試作品の試験販売	100セット以上	・加工試作品の試験販売 ジャム30セット、コンポート30セット、サルサソース10セット、ニンニク醤油10セット 甘味噌10セット、辛味噌10セット、ドレッシング30セット	130セット	
				③林業経営体等を対象とした林業研修の受講者 ・指導者育成研修(4.5日間)	8人	③林業経営体等を対象とした林業研修の実施 ・指導者育成研修(4.5日間)	2人	3
			・伐木技能向上研修の開催(2日間) ・林業架線作業主任者免許講習(15日間) ・林業経営体経営力向上研修(3日間)	・伐木技能向上研修の開催(2日間)	16人	・伐木技能向上研修(2日間)	4人	
				・林業架線作業主任者免許講習(15日間)	13人	・林業架線作業主任者免許講習の開催(15日間)	12人	
				・林業経営体経営力向上研修(3日間)	5社	・林業経営体経営力向上研修の開催(3日間)	3社	
指標：上記10項目の達成					10項目中6項目の達成：達成度3			